

賛助
会員
訪問



株式会社愛鶏園

たまごを通して大切な人を幸せにする 自社ブランド強化へ価値発信に注力

外食需要の低迷、コスト高騰、鳥インフルエンザなど様々な課題と向き合う鶏卵業界。約200万羽の採卵鶏を擁する株式会社愛鶏園では、雛からの一貫飼育を行い、新鮮で良質な鶏卵をスピーディーに供給。「愛鶏園ブランド」強化に向けSNS活用など情報発信に注力している。

独自配合飼料、一貫飼育で品質を向上

1925年、神奈川県横浜市で創業。現在は茨城県、埼玉県で合計約200万羽の採卵鶏を飼育する、株式会社愛鶏園。今回は、茨城県小美玉市の事業所を訪問した。2018年に新設された場内には、約100万羽を擁する成鶏農場、鶏糞を肥料化するコンポストセンター、洗卵・選別・包装を行うGPセンターが設けられ、1日約80万個の鶏卵が出荷される。

「産まれた卵はすぐにベルトコンベアで運ばれ、GPセンターで洗浄殺菌、ヒビや血卵などの検査、サイズ分け、包装へと流れていきます。もちろん衛生管理も徹底し、パック詰めまで人の手には触れません。生産性を高め、短納期で安定した品質の卵をお届けしており、スーパーマーケット様をはじめご評価いただいています」(齋藤拓代表取締役社長)



最新鋭設備を導入、衛生管理を徹底した GP センター

たまごを通して 大切な人を幸せにする



信頼の愛鶏園ブランドたまご

同社では創業以来、一貫飼育への強い信念がある。「自由市場の中で生き残るためには、新たな技術や情報を自ら積極的に取り入れることが重要です。創業者は、時代に先駆けて養鶏を専業とし、次々と新たな挑戦を行いました。その中で、効率的に安全・安心な卵の生産には一貫飼育が最適と考え、現在に受け継がれています」

分業が多い養鶏業界において、同社では種鶏の選定、種卵の生産、雛の孵化、雛の育成、鶏卵の生産、鶏卵の洗卵選別、鶏卵商品の包装、お客様への配送までをすべて行っている。また、飼料は自社オリジナルの配合を指定。グループ会社で配合の設計、調整を続けているという。

■設立/1925年 ■所在地/〒221-0864 神奈川県横浜市神奈川区菅田町2954

■TEL/045-471-9035 <https://www.ikn.co.jp/>



高品質の卵を活かした新商品を生み出す

養鶏における最大のリスクが、鳥インフルエンザなどのウイルス感染症とサルモネラ菌などの食中毒菌感染症。同社では業界に先駆けて1960年代にはラボを開設し、専門のスタッフにより、徹底的な衛生管理が行われ、ウイルス感染症コントロールと食中毒細菌コントロールが行われている。

手間とコストをかけ、さまざまな取り組みを行う同社では「たまごを通して大切な人を幸せにする」というブランドビジョンを掲げている。栄養豊富な卵は、大切に育てた鶏からの贈り物。その卵に生産者として誇りと責任を持ち、安心・安全な卵をお客様に届けることを大切にしているという。同社は販売先を関東を中心に展開している。「お客様に提供する価値を考えたとき、おいしい卵が絶対条件となります。生産拠点や物流、価格などを考慮し、関東圏での供給としております。とはいえ、OEMでの出荷が多く、関東圏でもまだまだ知名度が低く、伸びしろはたっぷりあると考えます」



1日約80万個の卵を生産する小美玉ファーム(左)とGPセンター(右)

愛鶏園ブランドの確立、浸透に向け、SNSなどを活用した発信にも注力。齋藤社長も「たまごの専門家」として自ら発信を行っている。



直売店(深谷)限定商品「愛プリン」

「このたび、健康な体づくりに欠かせないタンパク質を効率よく摂取する『タンパク習慣』に着目した新商品を発売いたしました。ぜひお問い合わせください」



家族の健康のためタンパク習慣に着目した2商品、どちらもたっぷり使えて便利な12個入りで新発売